haha ryoku

静岡県コロナ禍1年パパママ
アンケート調査報告会

2022/3/9（水）10：00～

NPO法人母力向上委員会

WAM助成 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

本日の内容

1． ごあいさつ
2． 調査概要
3． 分析結果サマリー
4． これからのコロナ禍子育て支援施策のご提案
5． 私たちにできること
6． 質疑応答

NPO法人母力向上委員会

haha ryoku

らしく、たのしく、つないでく

ビジョン

すべての人が
生まれてきてよかったと
思える社会へ

ミッション

妊娠・出産・子育て
×
受容・選択・創造

事業分野

1）母子保健・家庭教育支援に関する事業
2）男女共同参画に関する事業
3）子育て支援に関する環境デザイン事業
4）法人の目的を達成するために必要な事業

イベント　仕組みづくり

居場所　講座　情報発信　コラボ事業　まちづくり

母子保健　女性活躍　子育て環境デザイン

受容　選択　創造

調査概要

背景

コロナ禍においてオンライン・対面に関わらず個別相談の場面などでDVや不眠・うつ傾向など、これまでにない深刻なケースに出会う場面があった。
妊婦・乳幼児子育て中の世代は特にその影響が大きいのではないかと考えた。
相談に至ったケースは対応できたものの、表出していない課題があるのではないか、それを把握することが必要と感じた。
独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業（WAM助成）で調査に取り組んだ。

調査目的

1. 現状の生活状況、育児困難感、外出の状況などに関する実態を調査し、富士・富士宮を中心として県内各所の現状と課題、必要な支援について把握する。

2. 調査結果を県内の子育て支援関係者と共有することで各所における今後の子育て支援に活かす。

これらの目的に以下の３つの視点で調査を実施した。

1　コロナで外出できず家籠り率が上昇しているのではないか？家籠りだけでなく、経済、パートナーとの関係等様々な影響により不安・うつ状態などになっていないか？DVが増えていないか？

2　コロナになったことでこれまでのようにサロン・支援センター・ひろばなどに行けず、居場所を喪失しているのではないか？

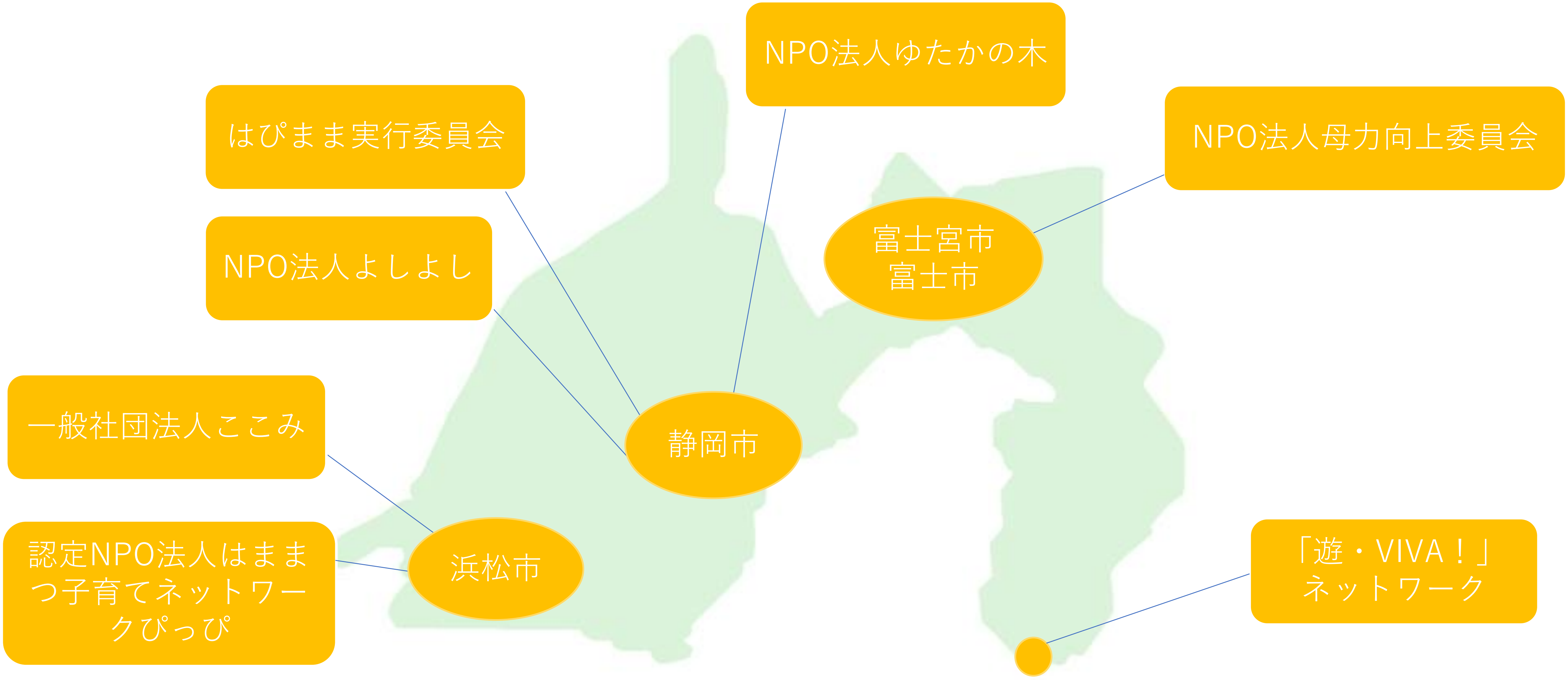
3　コロナで他者とのコミュニケーションが減少してはいないか？
そのことで受援頻度が下がってはいないか？

調査実施内容

実施期間	2021年10月1日～2021年11月15日
実施方法	googleフォームによるWEB調査
実施者	NPO法人母力向上委員会
対象者	2021年10月時点で妊娠中又は4歳未満児を子育て中の静岡県在住の男女
監修	白井千晶氏　静岡大学人文社会科学部教授
回答数	380件　　有効回答数　366件

実施地域と協力団体

静岡県内の子育て支援団体に協力を依頼して調査を実施

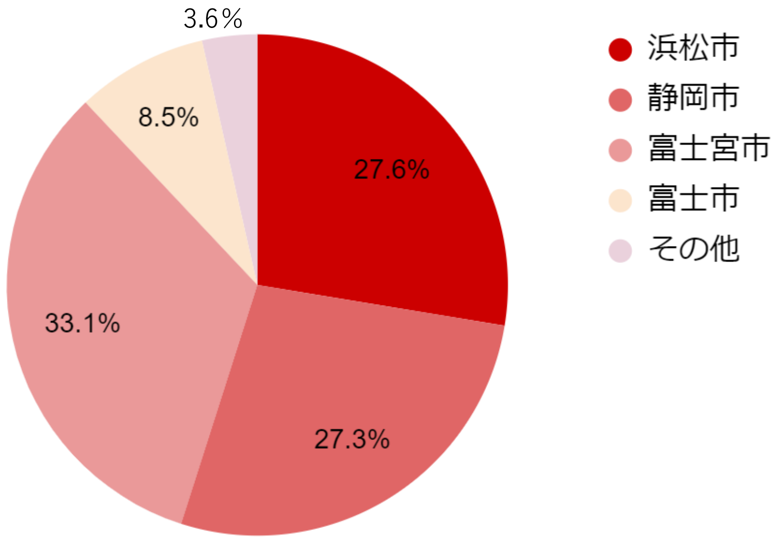


質問項目一覧　深く内容を問う質問を設定し、1件1件細部まで実態を探る調査を試みた

基本的属性	問1	居住市町	相談	問18	項目別相談先
	問 2	年齢		問19	コロナ禍での相談できる人・ママとの出会いのきっかけ
	問 3	妊娠・子育て中・母・父の別		問20	コロナ禍での相談スタイルニーズ
	問 4	こどもの人数	ピア	問21	行き詰まっていると感じた人の有無
	問5	子どもの年齢		問22	行き詰まっていると感じた時の対処
	問6	通園・通学状況	頼り先	問23	項目別頼り先
	問7	家族構成	外出状況	問24	在宅時間の増減
	問8	パートナーとの状況		問25	現在の外出頻度
	問9	祖父母世帯との距離		問26	こどもとの外出先
	問10	現在の仕事の状況	支援の実状	問27	コロナ禍で受けた支援
現在の生活状況	問11	コロナ前後でコロナの影響による仕事における最も大きな変化	支援ニーズ	問28	子育てを学んだ学生の存在は助けるなるか
				問29	町中における子育て理解者・サポート実践者の存在と子育て感
	問12	コロナ前後でのコロナの影響による世帯収入変化			
	問13	現在の経済的な暮らし向き		問30	地域限定の子育てオンラインコミュニティについて
親の気持ち	問14	WHO-5精神的健康状態		問31	望むサービス・サポート
	問15	コロナ禍の妊娠・子育ての困り事		問32	希望する妊娠・出産・子育てに関する情報取得先
	問16	コロナ禍の妊娠・子育での不安		問33	コロナ禍におけるパートナーとの関係の変化
	問17	コロナ禍の妊娠・子育てで感じた孤独		問34	コロナ禍1年における感じたこと、相談など

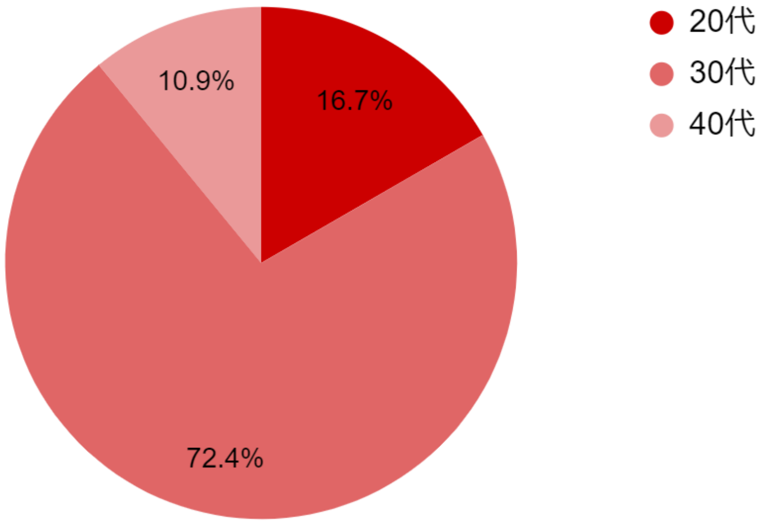
回答者の背景

地域

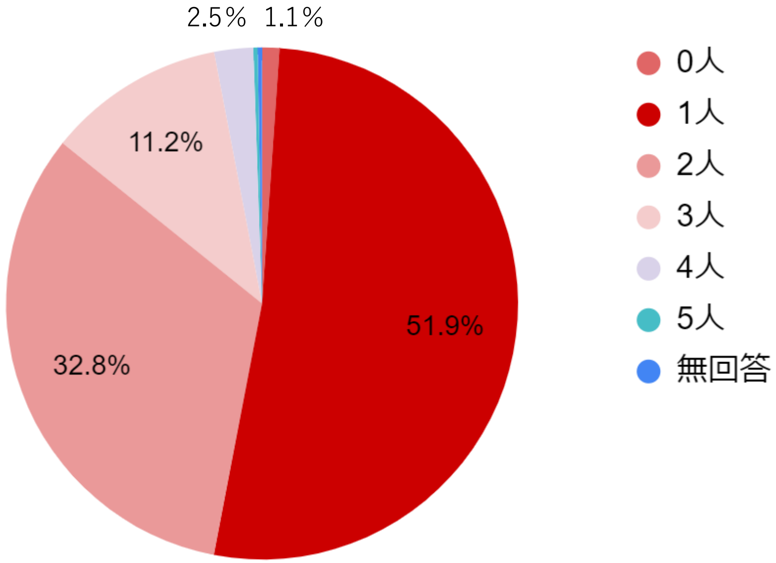


他県外県内13市町より回答在り

年代

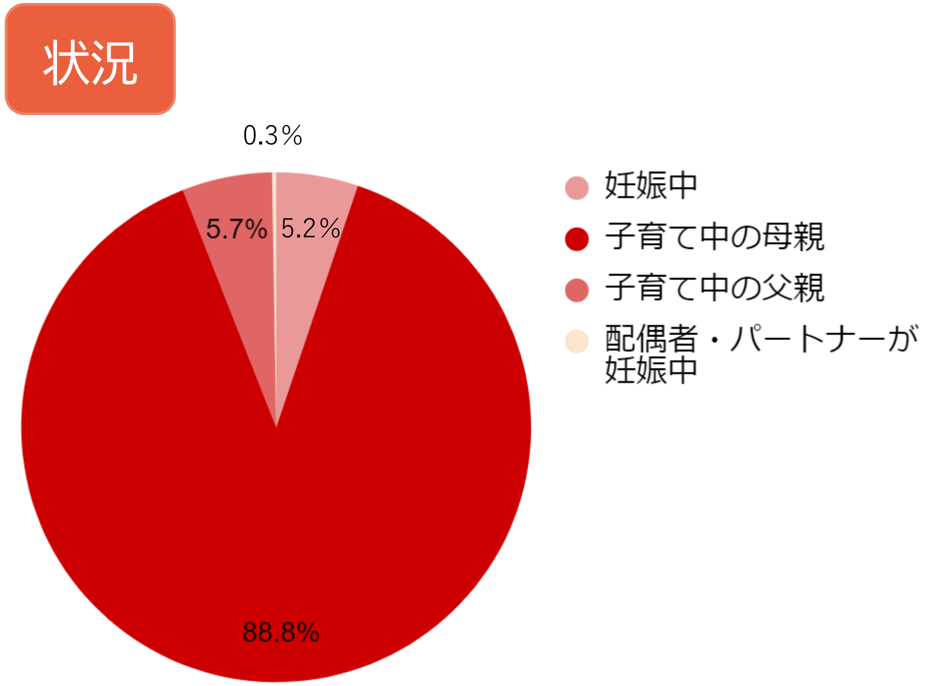


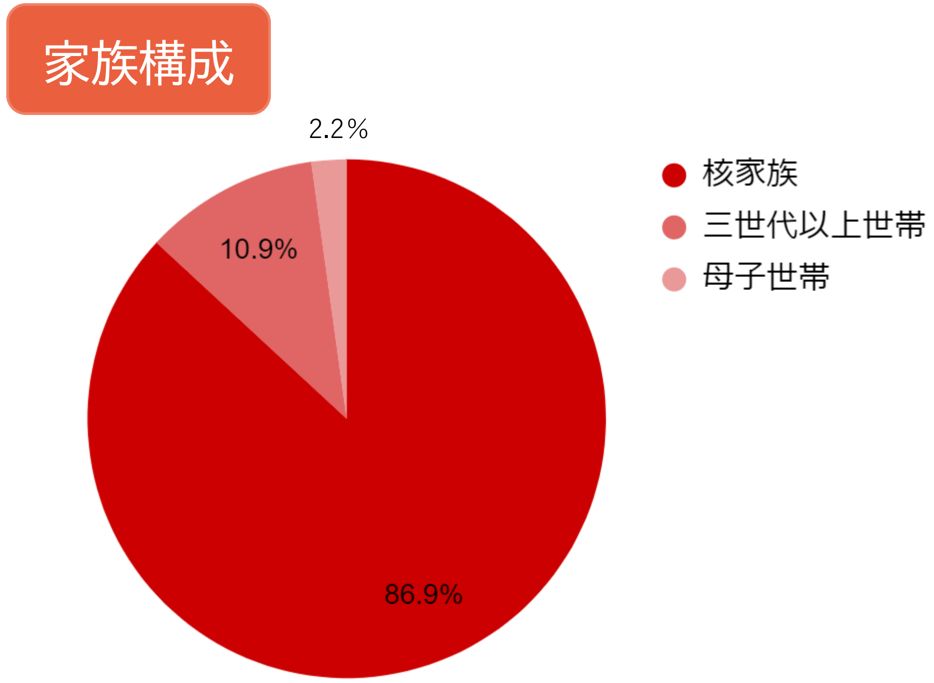
こどもの人数



回答者の全こどもの人数は589人
そのうち4割が在宅保育

回答者の背景


状況
0.3%
5.7%
5.2%
88.8%
妊娠中
子育て中の母親
子育て中の父親
配偶者・パートナーが妊娠中


家族構成
2.2%
10.9%
86.9%
核家族
三世代以上世帯
母子世帯

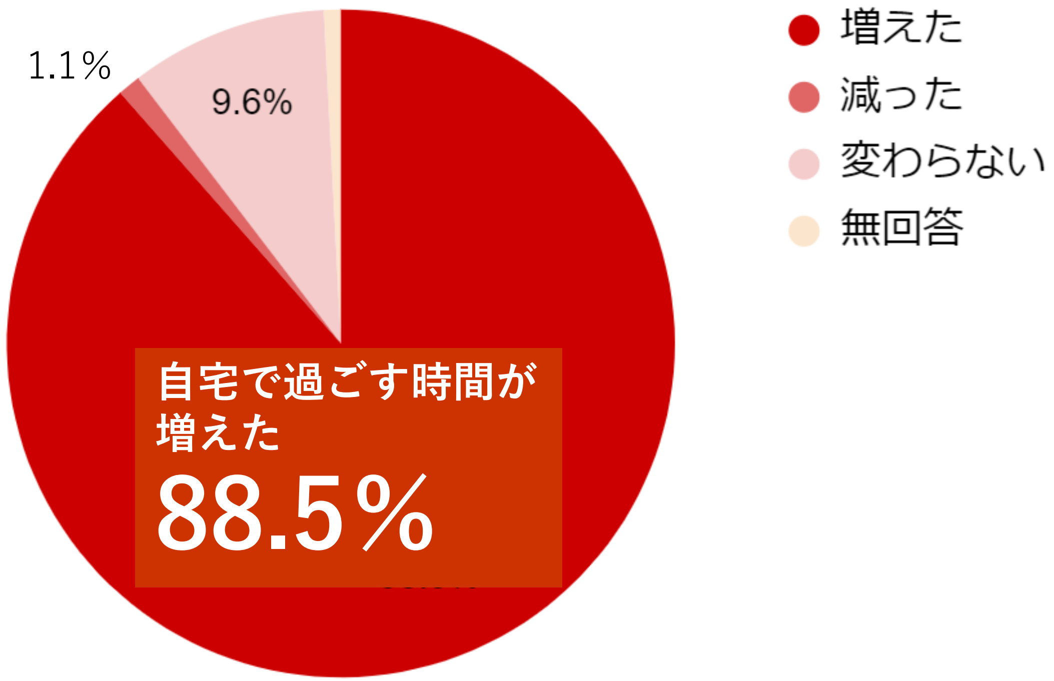
分析結果サマリー

1

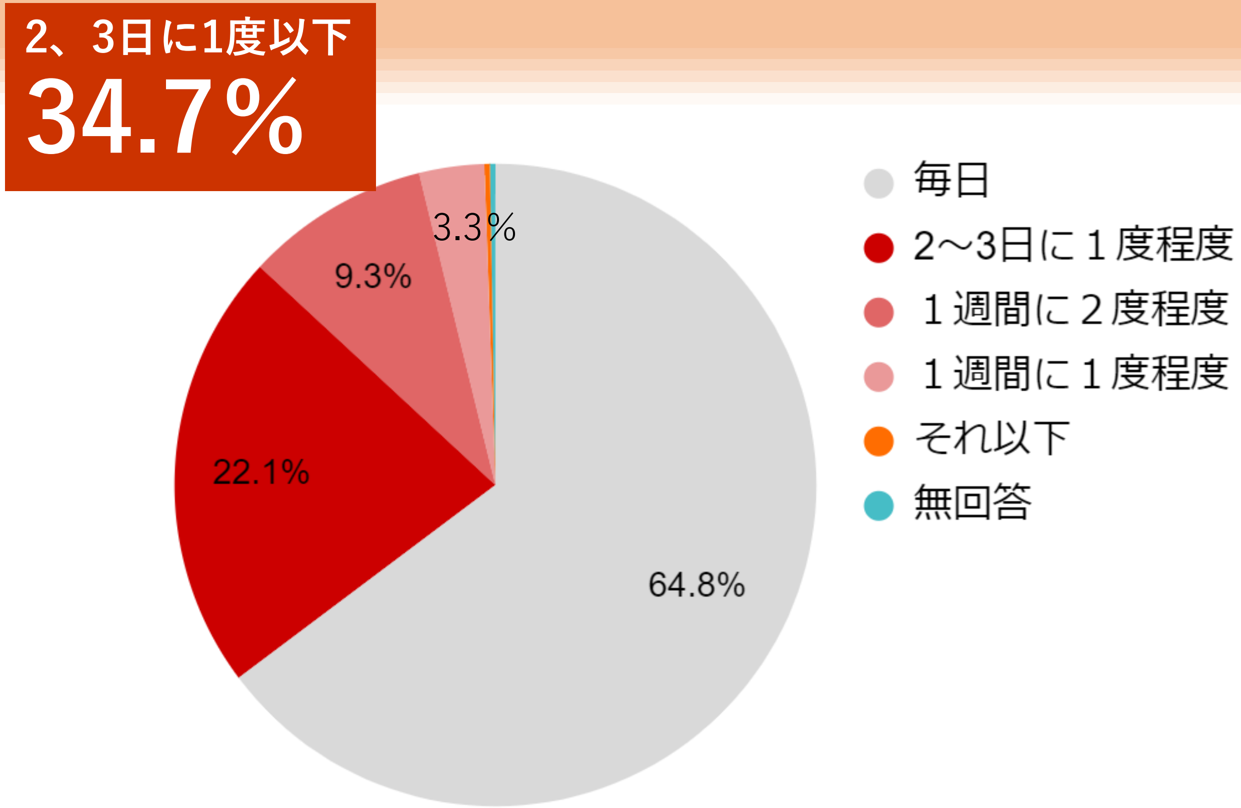
コロナで外出できず家籠り率が上昇しているのではないか？家籠りだけでなく、経済、パートナーとの関係等様々な影響により不安・うつ状態などになっていないか？DVが増えていないか？

- 約9割の人が家にいる時間が増えている。約3割が2, 3日に1度以下の外出頻度である。
- コロナの前後で世帯収入は3割弱の人が減少している。更に、約4割の人は生活にゆとりがなく苦しい状況であり生活状況や精神的にストレスがかかっている。
- パートナーとの関係は3割の人が悪い影響があったとしている。内容は相手に不満を感じることが多くなった、子育てや家事の負担が増えた、会話が減った、暴言･暴力があった等であり、在宅勤務や自粛生活による息詰まり感の影響が身近な相手に及んでいることが考えられる。
- 5割弱の人が精神的健康状態が低い状態に陥っている。スコアの分布や自由記載より危機的状況も懸念される。働いている、祖父母と同居している、ママ友がいない、コロナ禍でのサービス利用がない、パートナーとの関係性が悪化している人たちに低い傾向がみられた。

分析結果サマリー



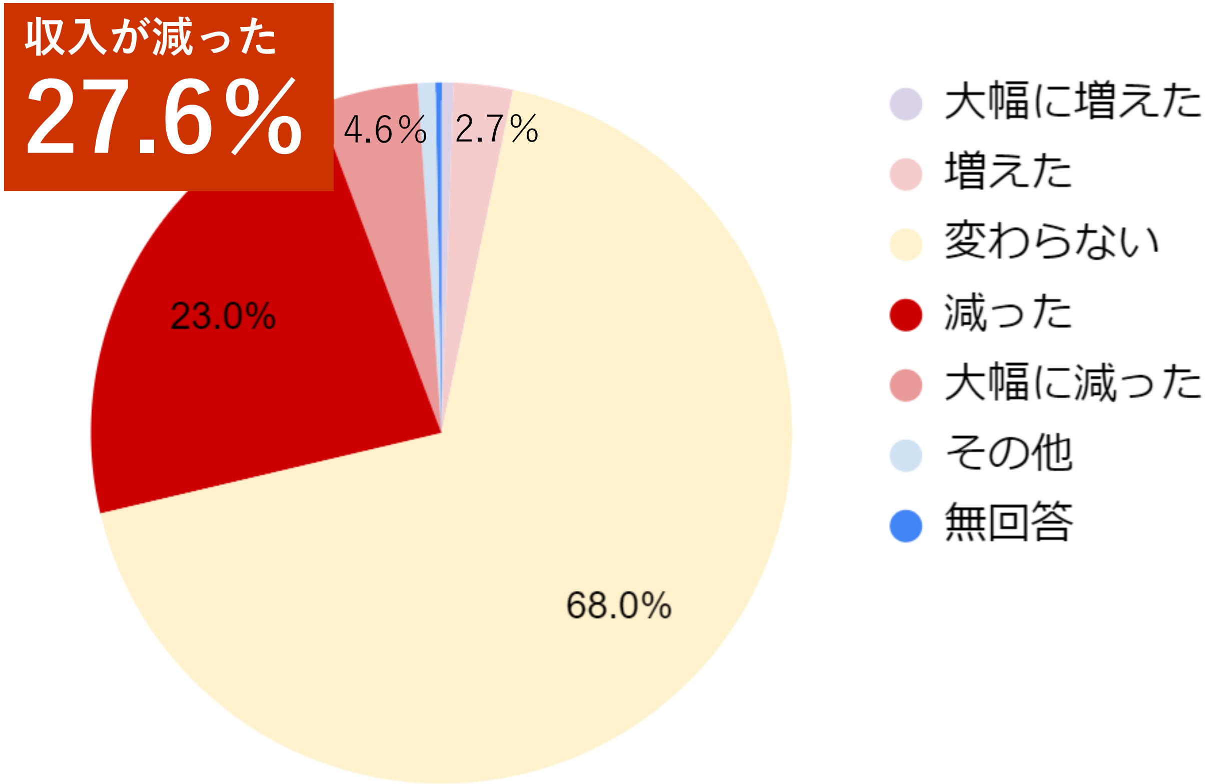
問24.コロナ前後で自宅で過ごす時間は増えましたか？



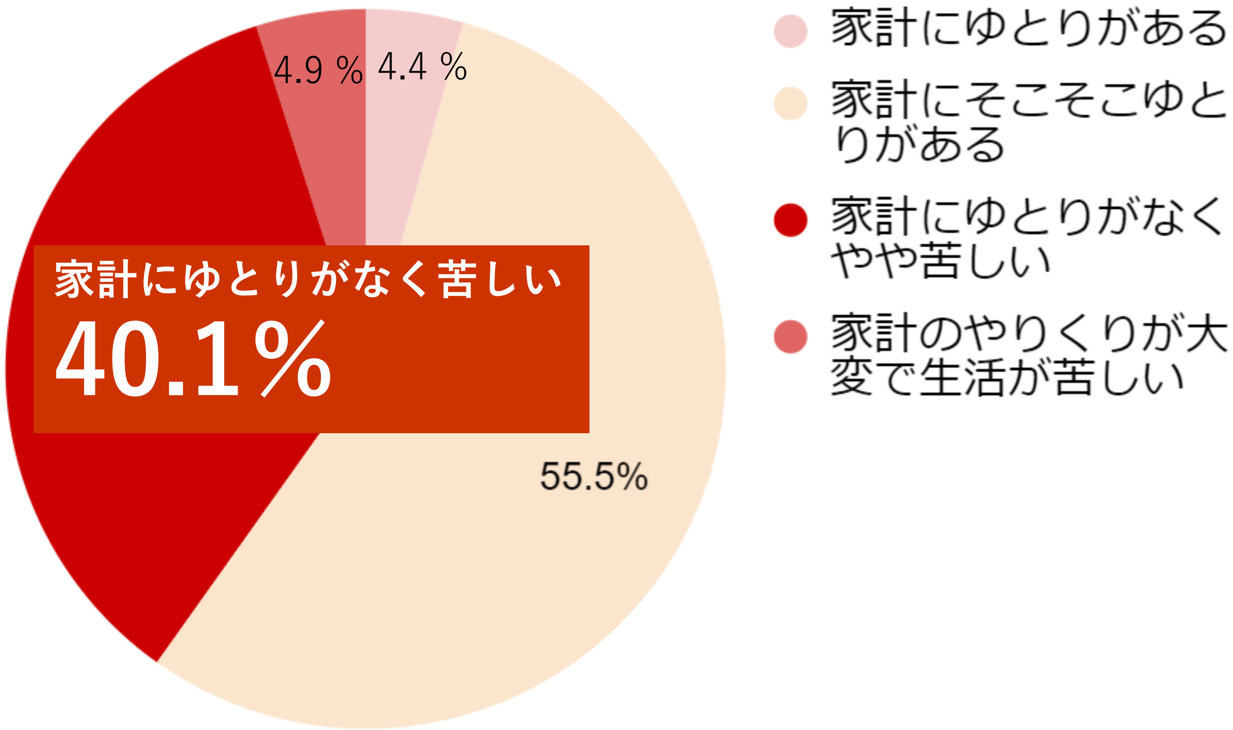
問25.仕事や買い物、散歩等を含めて現在の外出する頻度はどのくらいですか？

- 約9割の人が家にいる時間が増えている。約3割が2, 3日に1度以下の外出頻度である。

分析結果サマリー



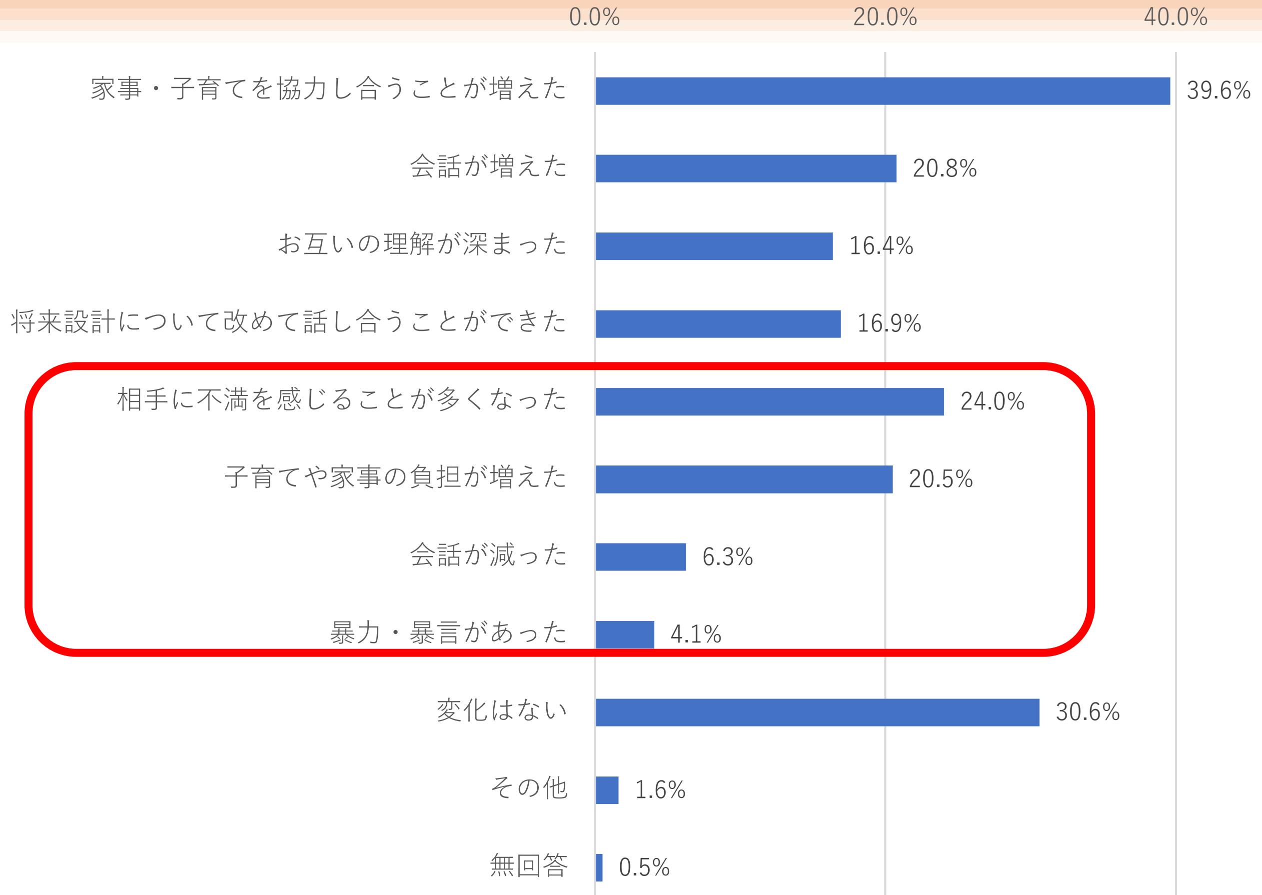
問12.コロナ前後でコロナの影響であなたの家族の世帯収入に変化はありましたか？

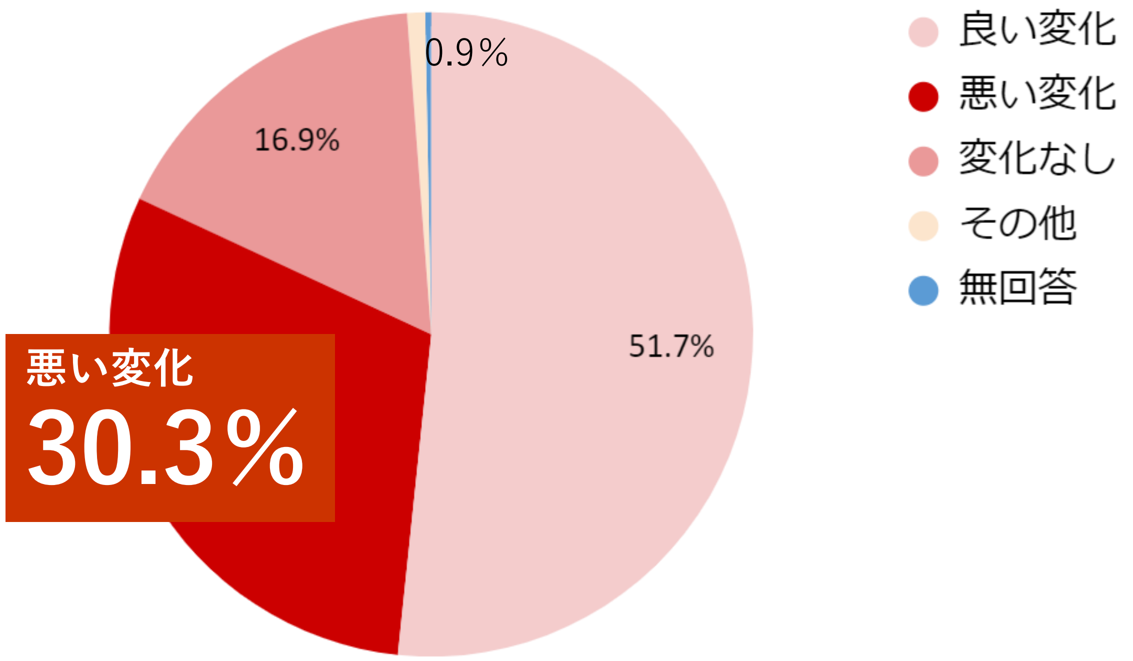


問13.現在の経済的な暮らし向きを教えて下さい。

- コロナの前後で世帯収入は3割弱の人が減少している。更に、約4割の人は生活にゆとりがなく苦しい状況であり生活状況や精神的にストレスがかかっている。

分析結果サマリー

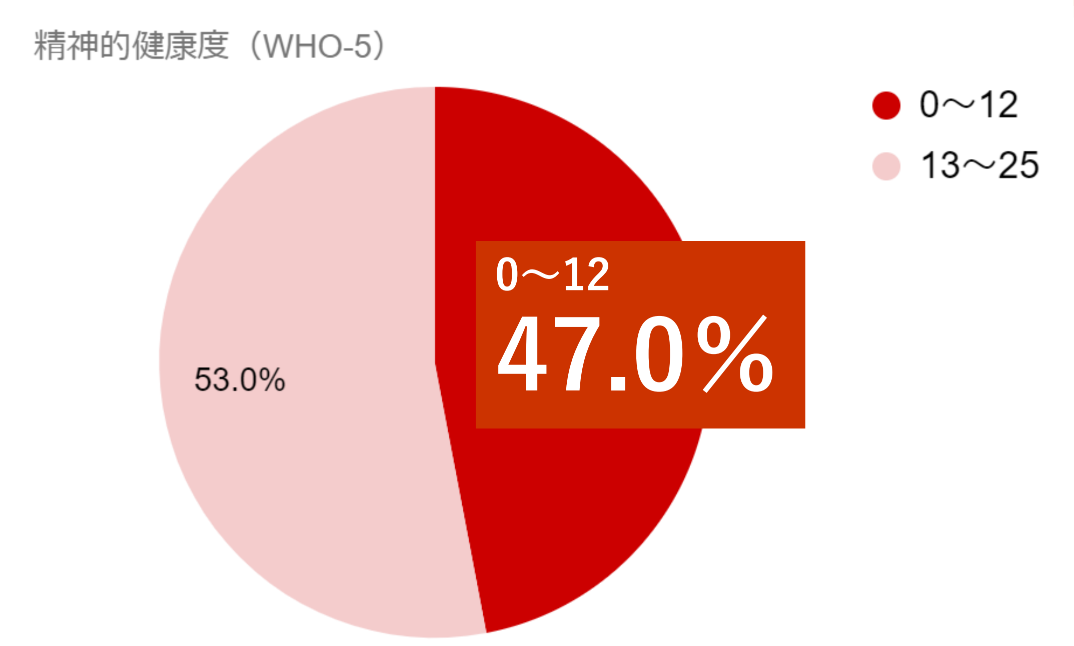


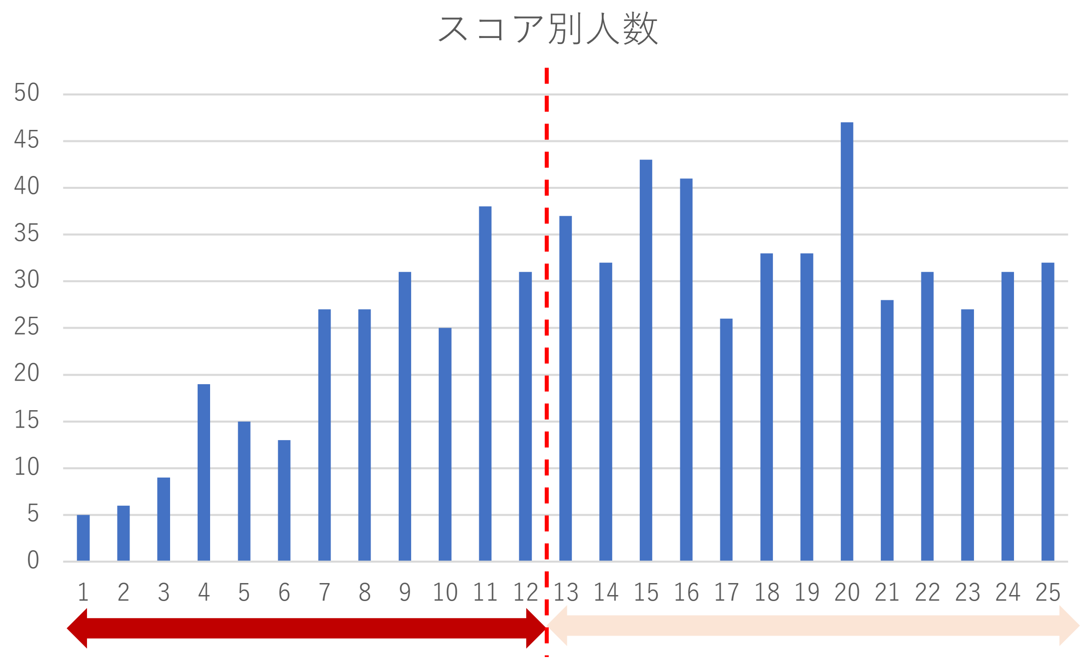


問33.コロナ禍でパートナーとの関係にどのような変化がありましたか？（複数回答）

- パートナーとの関係は3割が悪い影響があったとしている。内容は相手に不満を感じることが多くなった、子育てや家事の負担が増えた、会話が減った、暴言・暴力があった等であり、在宅勤務や自粛生活により息詰まり感の影響が身近な相手に及んでいることが考えられる。

分析結果サマリー





WHO-5精神的健康状態表（1998年版）利用
＊スコア0~12は精神的健康状態が低いことを示し、最も不良は0である。
＊スコア13~25は精神的健康状態が高いことを示し、25は最も良好であることを示す。

問14. 最近２週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけて下さい（うつスケール）

- 5割弱の人が精神的健康状態が低い状態に陥っている。スコアの分布や自由記載より危機的状況も懸念される。働いている、祖父母と同居している、ママ友がいない、コロナ禍でのサービス利用がない、パートナーとの関係性が悪化している人たちに低い傾向がみられた。

VOICE

ひとりで子育てをしなければならない責任感にいつも押しつぶされそうです。でもなんとか毎日生きています。

生き辛い

コロナがなければ産後もたくさん人に会えて子どもを見てもらったり、ママ友と遊んだり支援センターなどのイベントにも参加できたのにな、コロナがなければ育児がもっと楽しかったんだろうなと残念な気持ち。

産後うつと診断されました

正直疲れました。
元々心配性なので、コロナと子育てに不安とやりたい事ができない悔しさで毎日辛いです。

仕事と、週一回のスーパーマーケット以外の外出をしないまま一年半が経過し、しんどい。息が詰まりそうで、子どもも親も苦しい。

初めての子育てプラスコロナ禍で孤独感を感じることが多いが、経済面での不安や外出も難しく大人がストレスを発散するのも難しい。希望をもちたいが日々過ごすのが精一杯で将来の希望がもてず閉塞的な気持ち。

病気を患う子どもの体調の変化に敏感になり、コロナに対する恐怖を抱きながら過ごしている。

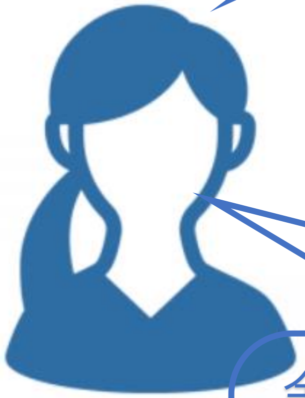
分析結果サマリー

経済・パートナーシップに関するVOICE

もう1人子どもが欲しいがコロナ禍で金銭的に諦めざるをえない

市外に住む消防士の父親に子どもたちを会わせることが怖く感じた。

毎日言い合いに



初めての子育てプラスコロナ禍で孤独感を感じることが多いが、経済面での不安や外出も難しく大人がストレスを発散するのも難しい。希望をもちたいが日々過ごすのが精一杯で将来の希望がもてず閉塞的な気持ち。

離婚しました

コロナに関する考え方がパートナーと違いすぎて話にならなかった。ひたすら我慢する日々だった。

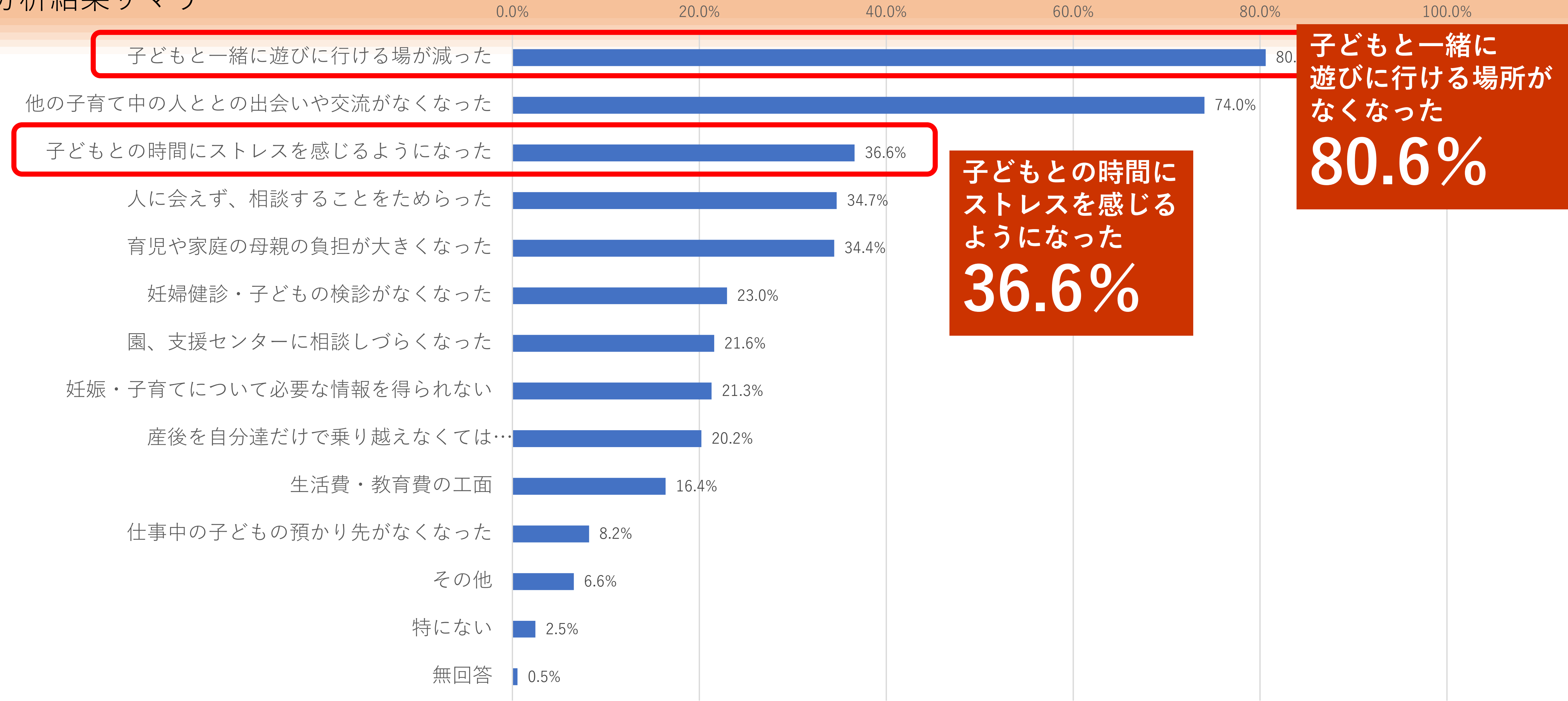
金銭面と孤独の不安ですね。できる行動的なものは積極的にはしていますが…自分のベースから離れてる身としては、弱音を吐ける場所は何処にも無いです。実家や地元へ帰省しリラックスをしたいのですが、金銭面の余裕も無く…我慢です。

2

コロナになったことでこれまでのようにサロン・支援センター・ひろばなどに行けず、居場所を喪失しているのではないか？

- 8割の人が「子どもと一緒に遊びに行ける場所が無くなった」、3割の人が「子どもといる時間がストレスに感じる」と回答。居場所の喪失、子どもとの時間へのストレスを抱えている。
- コロナ禍でサービスを「利用しなかった」と約4割が回答している。時間制限・人数制限・予約制などの感染予防対策の取り組みが利用のハードルとなっているとも考えられる。
- 祖父母が遠距離にいる人は帰省ができず、近隣でも祖父母宅に身を寄せることができず自宅以外の居場所がない状態で子どもと過ごす時間をストレスに感じることに繋がっていると考えられる。

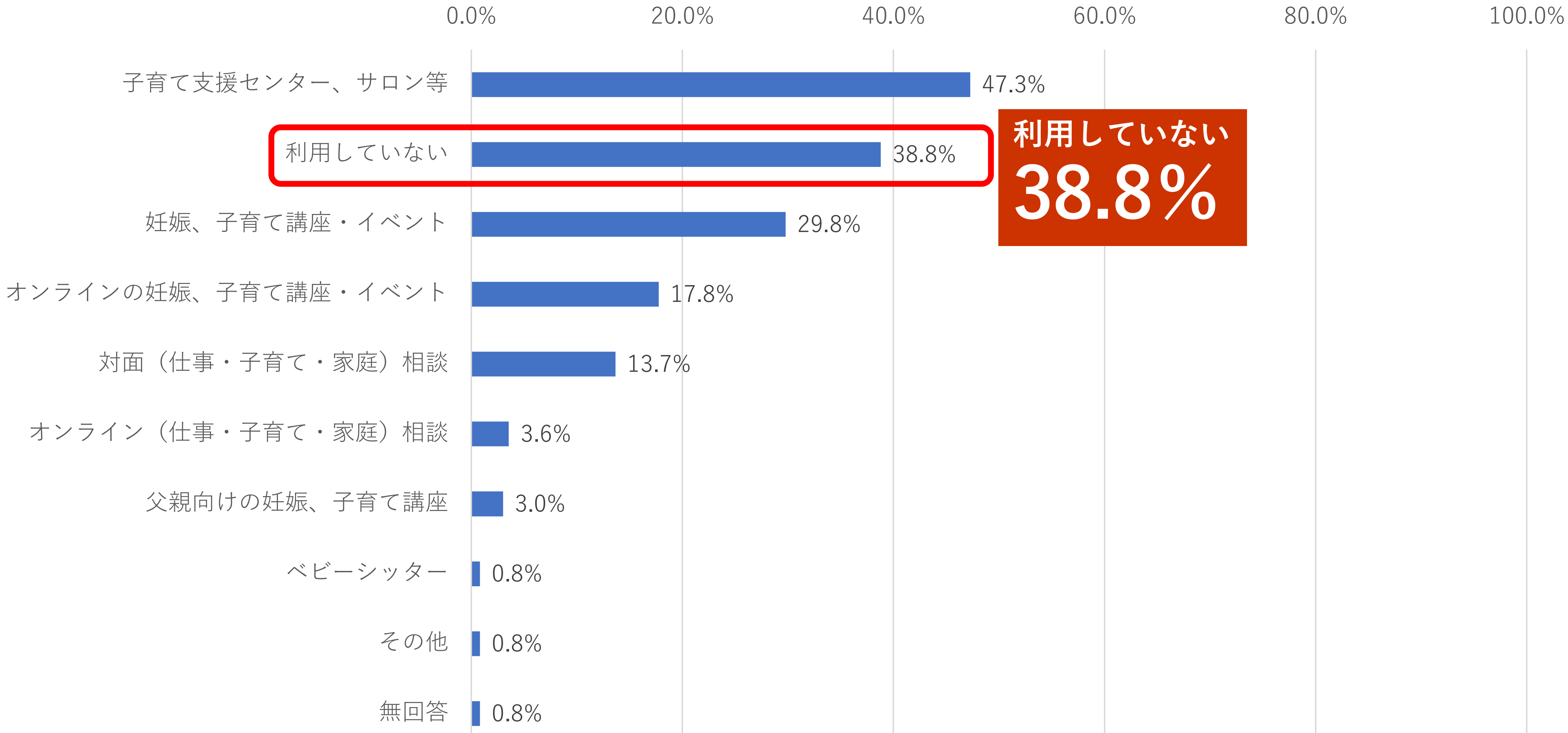
分析結果サマリー



問15.コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことに困りましたか？（複数回答）

- 8割の人が「子どもと一緒に遊びに行ける場所が無くなった」、3割の人が「子どもといる時間がストレスに感じる」と回答。居場所の喪失、子どもとの時間へのストレスを抱えている

分析結果サマリー



問27.コロナ禍で受けたサービスやサポートはなんですか？（複数回答）

- コロナ禍でサービスを「利用しなかった」と約4割が回答している。時間制限・人数制限・予約制などの感染予防対策の取り組みが利用のハードルとなっているとも考えられる。

支援センター等利用に関するVOICE

気楽に外出ができないことは苦痛です。行ける場所も制限されて、ストレスが感じます。

再開したものの利用回数の制限などもあり、以前よく会っていたお母さん達と会えなくなってしまいました。連絡先は知っていても誘っていいのか迷ってしまい、結局疎遠になってしまった人もいます。

制限が厳しくて困る

子供と過ごす時間がなさすぎて、子育てが辛いと思った

気候が良い時には公園など居場所はありますが、そこで親しい関係になることは難しく、ただ子どもを遊ばせるだけでした。コロナの感染など漠然とした不安がずっと付きまとってモヤモヤした気持ちが強い1年半でした。

コロナの影響で1人目の育児とは全く違う環境になり戸惑う事が多いです。1人目の時に頼った場所が無くなり、どうしたらいいか分からない時がある。居場所がないような不安にかられる。

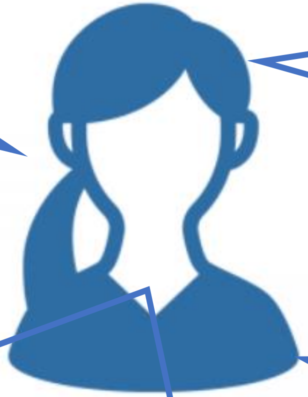
子育て支援センターやこども館など室内の施設を多く利用していましたが、人数制限が設けられたり遊びに行く機会がどんどん少なく･･･。仕方がないので屋外の公園で遊んでいたが、ついには一歩も外に出ない生活を送るようになってしまいました。息子は今2歳でわんぱくな遊び盛り。思いっきり体を動かして遊びたい盛りなのにいろいろな活動が制限されてしまってとても残念に思います。

VOICE

下の子が産まれたばかりというのもありなかなか外へ出られず家の中にこもりっぱなしで、上の子のストレスも溜まっていく一方で私自身のストレスも溜まり主人やこどもに当たってしまう事が増えた。イヤイヤ期真っ盛りの上の子への接し方など相談したい

夫の転勤のため、馴染みのない土地で育児をしています。毎日孤独を感じますが騙し騙し生きてます。

気軽に県外の実家に帰れないのがつらかった。配偶者はご両親は近くにいるので何かあればそっちに逃げることができる。自分は常にこどもと一緒でちょっとしんどい。



日中はほとんどワンオペで子育てしています。感染は目に見えないので、神経質になってしまうの時期があり、気軽に頼れる実両親が近くにいたらなぁと感じました。また、支援センターなどが閉鎖されてしまったときは、孤独感をよりいっそう感じ、子どもとの時間が少し苦痛に思うことがありました。早く元の生活が戻ることを願っています。

感染予防に関しての夫婦で意識が違うなかで、子どもの感染を守らなくてはならないのが、かなりストレスになった。テレビで、感染予防もせずに出歩いている人を見ると、腹立たしくてしょうがなかった。

3

コロナで他者とのコミュニケーションが減少してはいないか？
そのことで受援頻度が下がってはいないか？

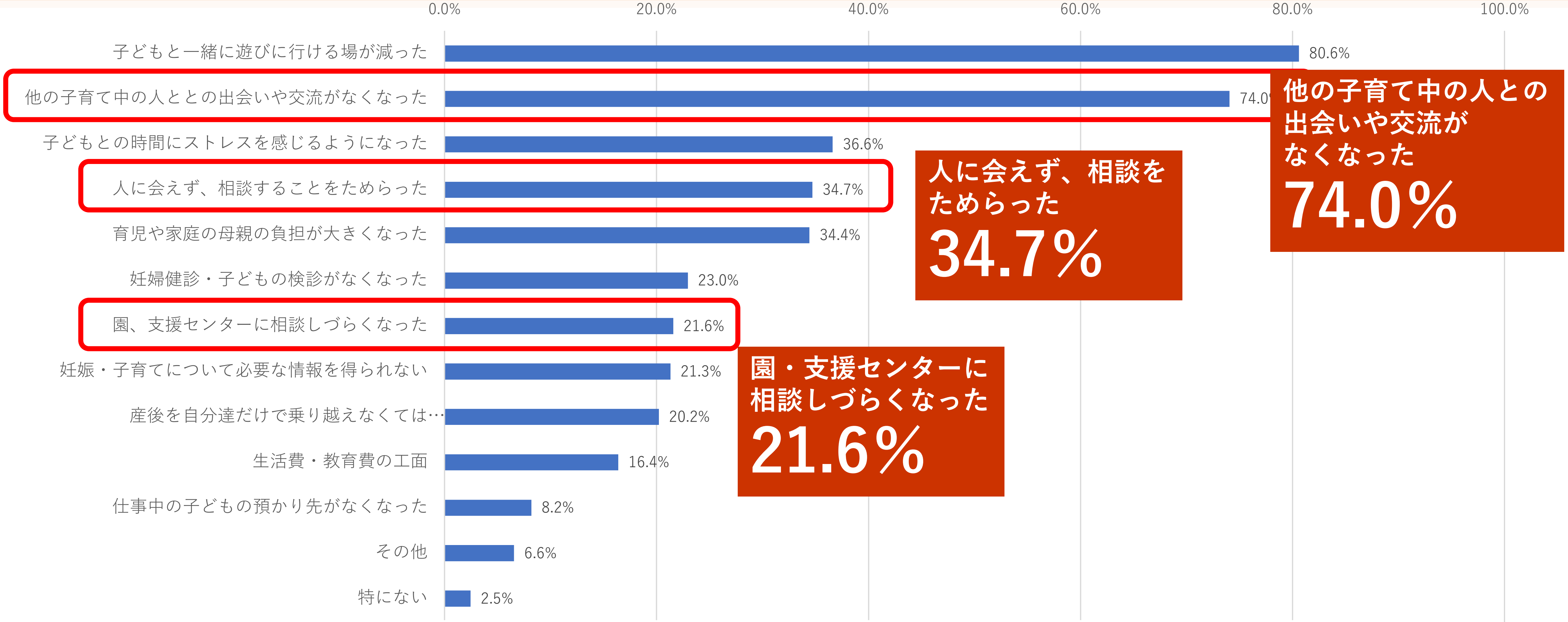
- 約7割が他の子育て中の人との出会いや交流がなくなったと回答、相談することをためらった人が約3割、相談しづらくなったと回答した人が約2割、他者とのコミュニケーションが減少している

- コロナの影響でサービスやサポートの利用をしなかった人もいることから、支援者と繋がる機会を失っている。不安で人に頼っていいかわからない。一人で子育てしなければいけない感じがする、悩みを相談できる相手がいないなど受援頻度が下がっており、孤独感の増大につながっている。

- 相談先や頼り先を持たない人は精神的健康状態が悪い傾向にある。相談先として最も多かったのはパートナーであった。次いで親、ママ友の順に多かった。

- 「行き詰っているママ友がいる」という気づきやそれに対するアクションがあり、支援にまでいかないが、虐待予防的な意味合いでもママ友というピアサポーターの存在はセーフティネットになり得ているが、コロナ禍では、「周りのママの様子が分からない」と5割弱が回答しており、とインフォーマルサポートとしてのピアサポーターが機能出来ない状況にある。

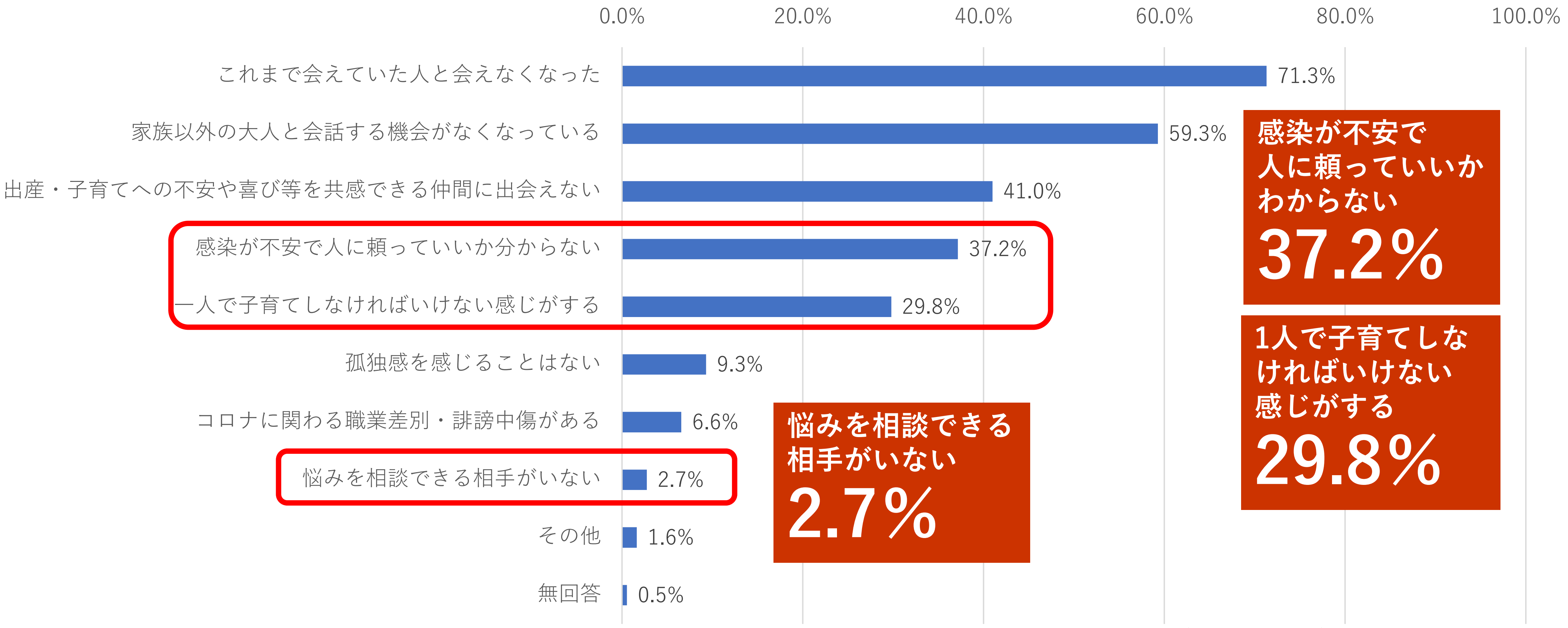
分析結果サマリー



問15.コロナ禍の妊娠、子育てでどんなことに困りましたか？（複数回答）

- 約7割が他の子育て中の人との出会いや交流がなくなったと回答、相談することをためらった人が約3割、相談しづらくなったと回答した人が約2割、他者とのコミュニケーションが減少している

分析結果サマリー



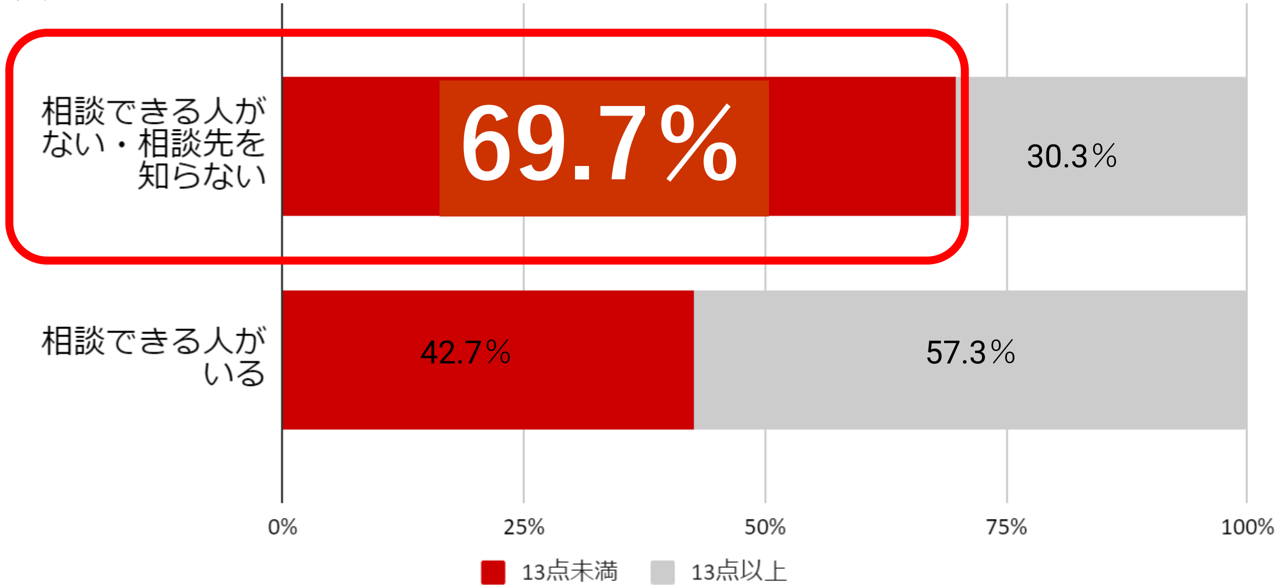
問17.コロナ禍の妊娠、子育てで孤独感を感じたことはありますか？（複数回答）

- コロナの影響でサービスやサポートの利用をしなかった人もいることから、支援者と繋がる機会を失っている。不安で人に頼っていいかわからない。一人で子育てしなければいけない感じがする、悩みを相談できる相手がいないなどの回答があり受援頻度が下がっており、孤独感の増大につながっている。

分析結果サマリー

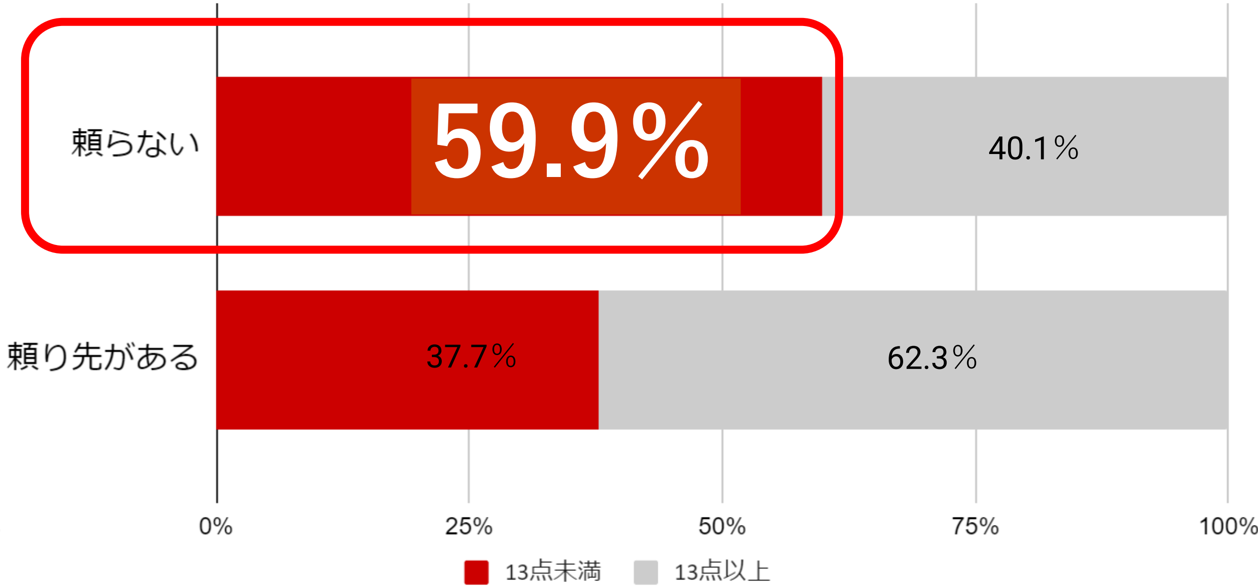
相談先の有無と精神的健康状態

※問18. ①妊娠・出産②子育て③パートナー④自分自身のこと⑤家計それぞれの項目についてで相談できる人がいない、知らないと答えた人を抽出



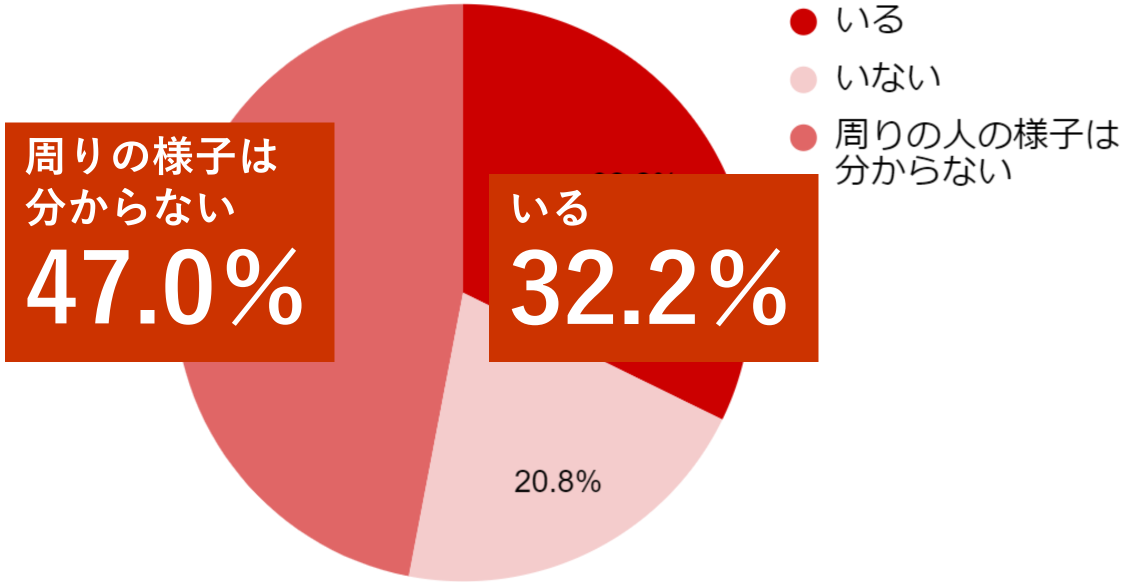
頼り先の有無と精神的健康状態

問23.あなたは普段誰・どこに頼りますか？という問いで頼らないと答えた人を抽出

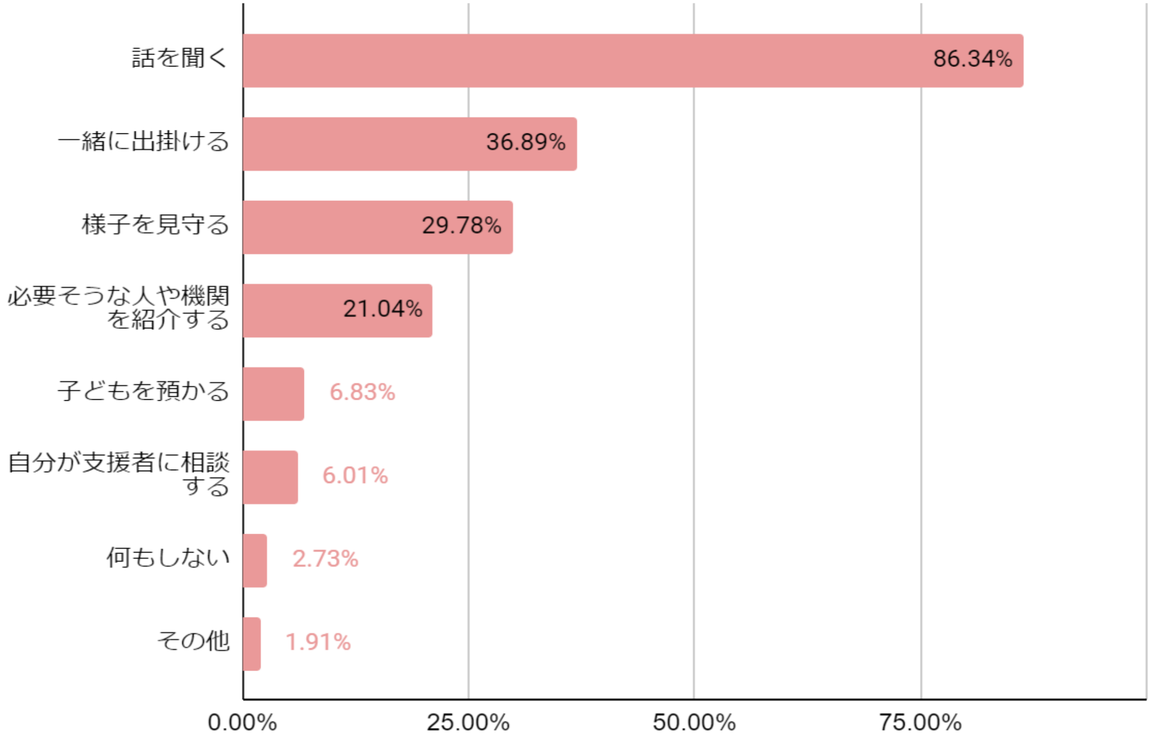


- 相談先や頼り先を持たない人は精神的健康状態が悪い傾向にある。相談先として最も多かったのはパートナーであった。次いで親、ママ友の順に多かった。

ピアサポーターの可能性



問21.ママ友やあなたの周りのママで子育てに行き詰っているなと感じた人はいますか？



問22.ママ友が子育てに行き詰っているなと感じたとき、どのように対処していますか？（複数回答）

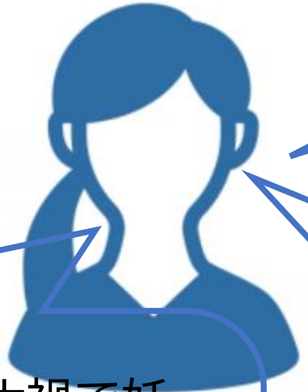
- 「行き詰っているママ友がいる」という気づきやそれに対するアクションがあり、支援にまでいかないが、虐待予防的な意味合いでもママ友というピアサポーターの存在はセーフティネットになり得ているが、コロナ禍では、「周りのママの様子が分からない」と5割弱が回答しており、とインフォーマルサポートとしてのピアサポーターが機能出来ない状況にある。

VOICE

生まれてすぐにコロナが世界にひろまったから、子育てに必要なことを教えてくれるとこなどが閉鎖され、なにもわからず相談もできず、コロナも怖いからひきこもり状態だった。

コロナの影響もあり、育児ノイローゼ、うつ。いつも、何かしら色々な不安を持ちながら仕事、育児。

初めての出産がコロナ中ということもあり、相談しづらく、自分で溜め込むようになってしまい、産後うつと診断されました。
今は病院と相談しながら日常生活を送っていますが、早く前のような生活に戻れたらと思います。

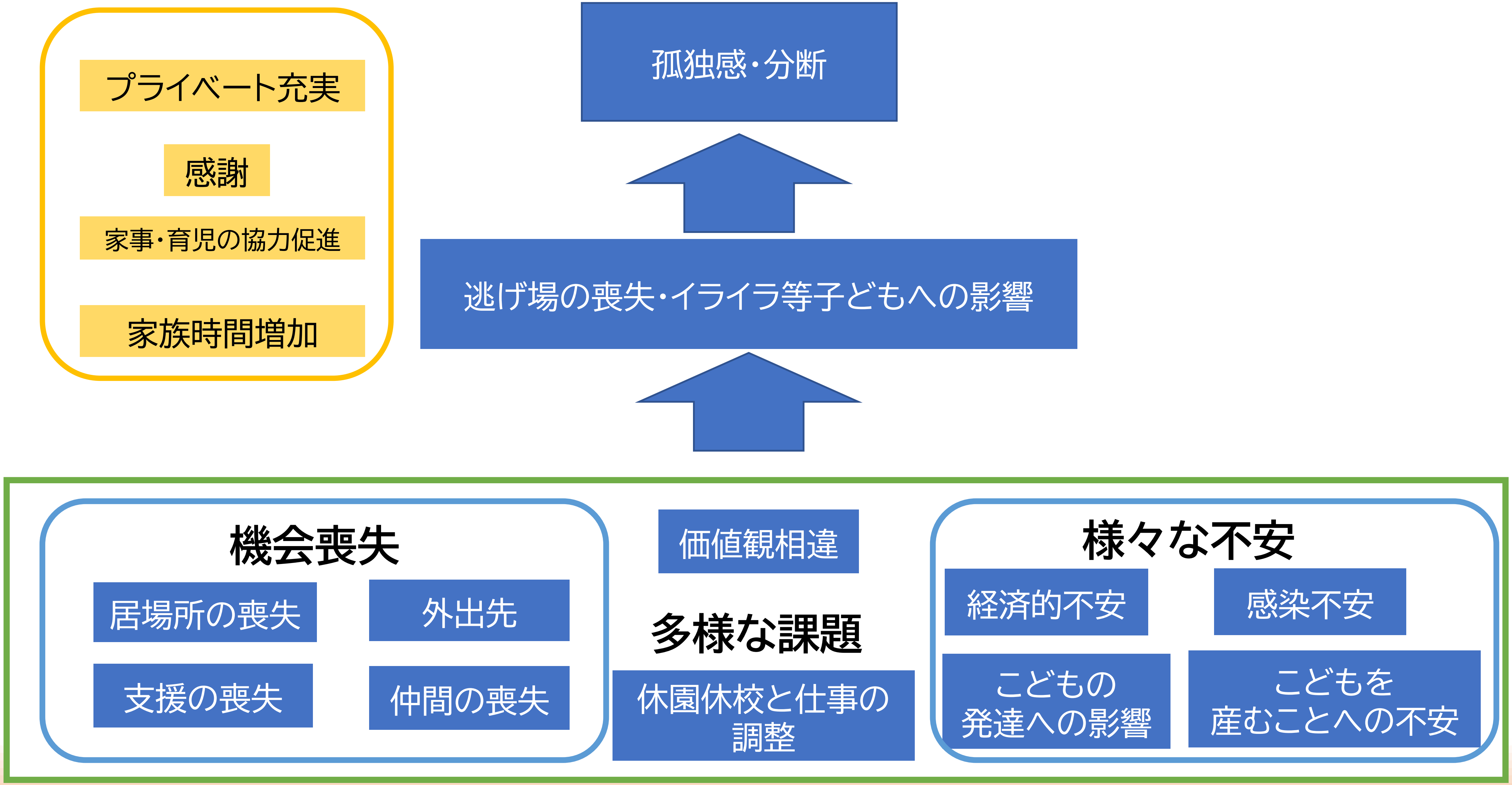


結婚して友達のいない場所に来て、そのままコロナ禍で妊娠出産したので、全く友達がいません。夫とも婚活で出会ってすぐに結婚したのでまだ距離を感じます。気軽に相談できる親や友達は距離があるので主にLINEなどで話をしています。車が運転できないし、自分の収入や小遣いも少ないので1人では外に出かけられず、ストレスは溜まっていると思います。

子どもたちをどうコロナから守りながら、仕事が続けるか、またどんな状況になったら、仕事を休んで子どもを家庭保育に切り替えるか、そんな事を毎日のように夫と話し合い喧嘩しました。お友達が長期間お休みし、不安がる子どものケアにも、苦戦しました。

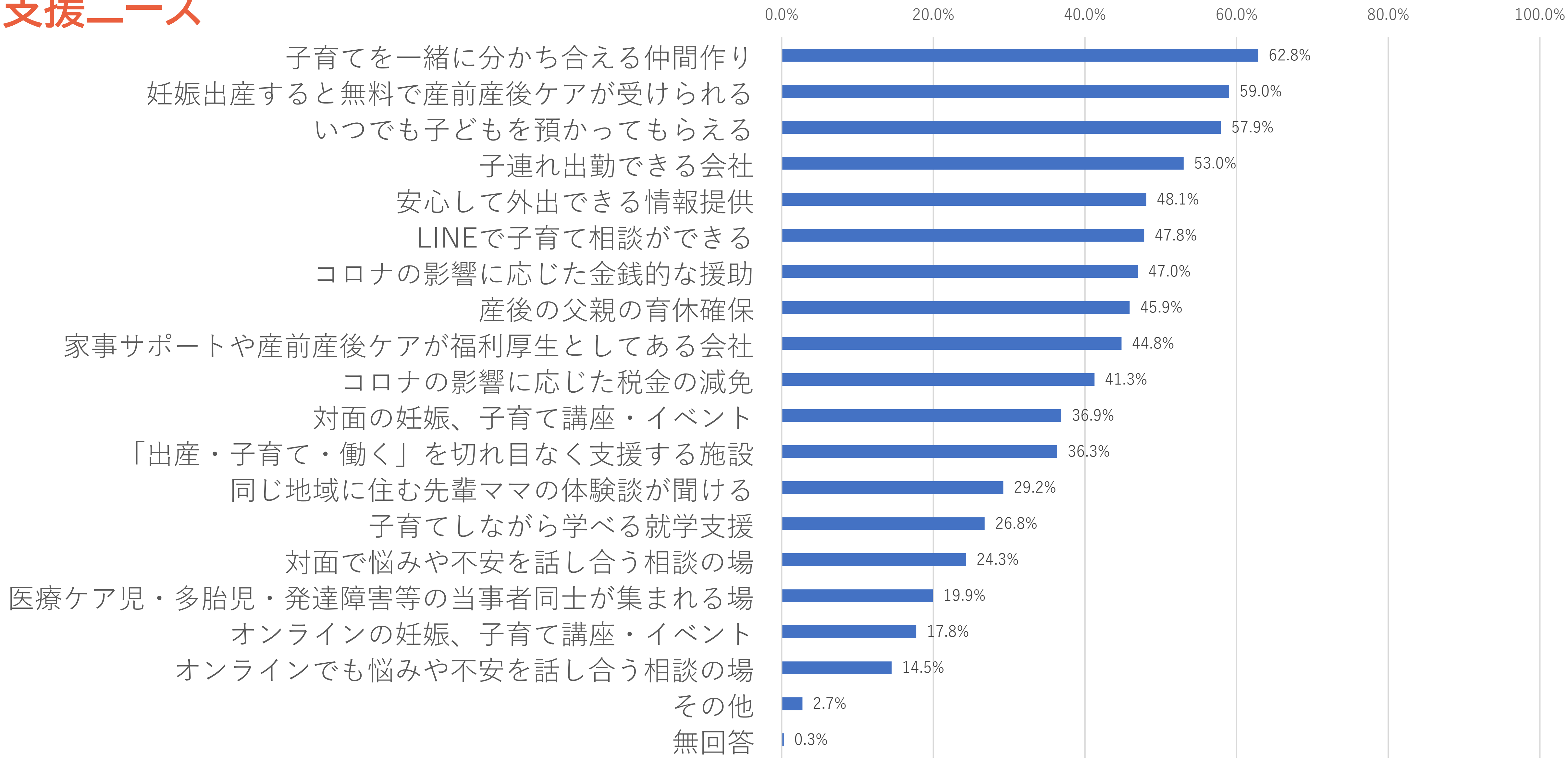
自由記載ラベリング分析

コロナ禍1年子育てスタート期の現状



分析結果サマリー

支援ニーズ



問31.どのようなサービスやサポートがあったら良いと思いますか？（複数回答）

対象別支援ニーズ

対象者別に上位項目を〇で示した。

	仲間づくり	経済支援	無料産前産後ケア	子連れ出勤	オンライン講座・イベント	柔軟対応可能な預け先	父の育休確保	安心できる外出情報
全体	〇		〇	〇		〇		〇
父親		〇		〇		〇	〇	
祖父母が遠距離	〇		〇			〇	〇	
妊婦	〇		〇				〇	
働いている				〇	〇	〇		〇
ママ友がいない			〇	〇	〇	〇	〇	〇
相談できない・頼らない	〇		〇		〇	〇		〇

本調査により見えた課題

＃１　ママ友不在・相談できない・頼らない人の精神的健康度の低下

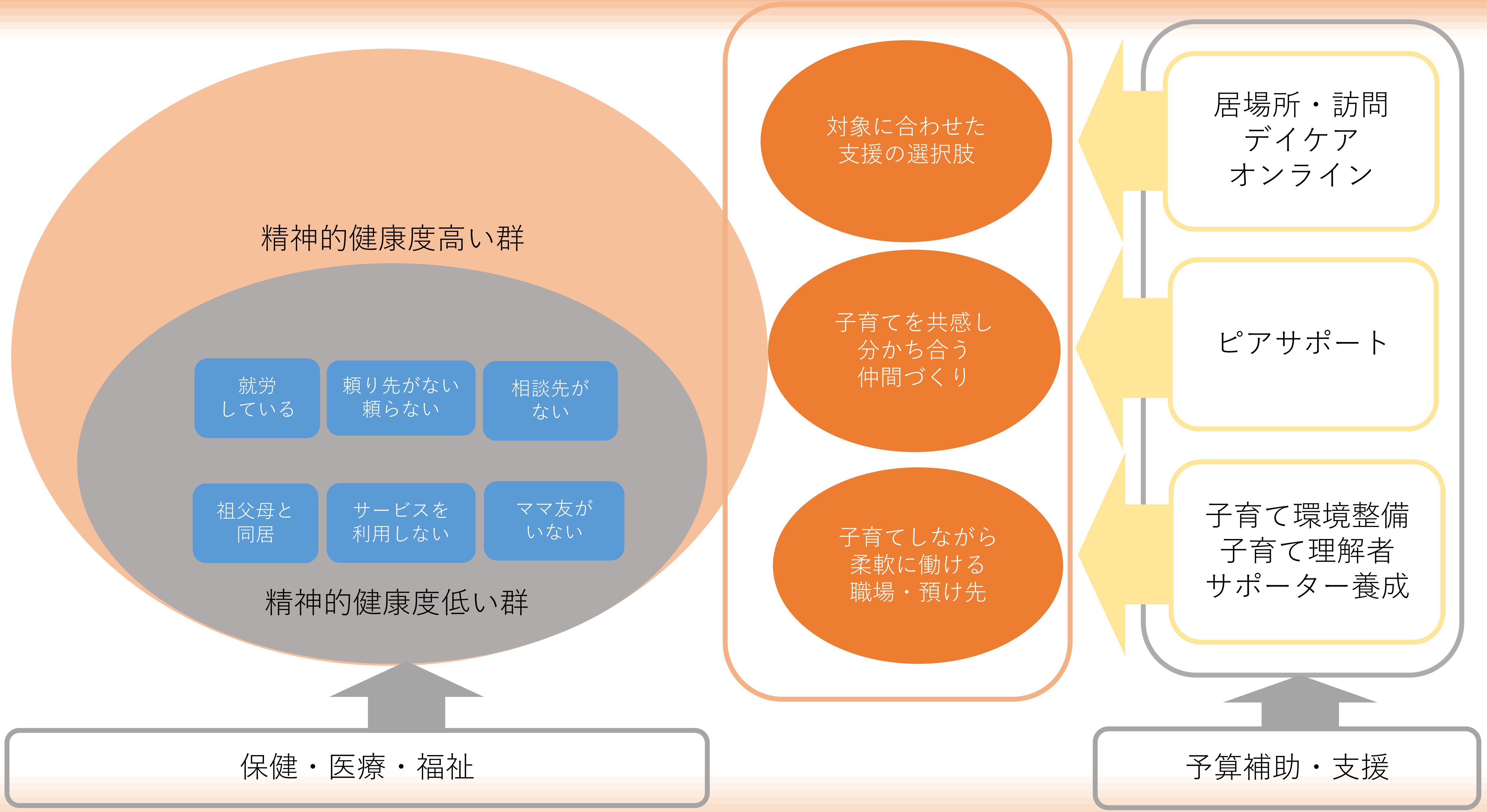
＃２　機会の喪失による受援力の低下と孤立化

＃３　不安と利用制限による支援機関への初回利用の遅延

＃４　＃1～3による個人課題の深刻化とこどもへの影響

これからの
コロナ禍子育て支援施策のご提案

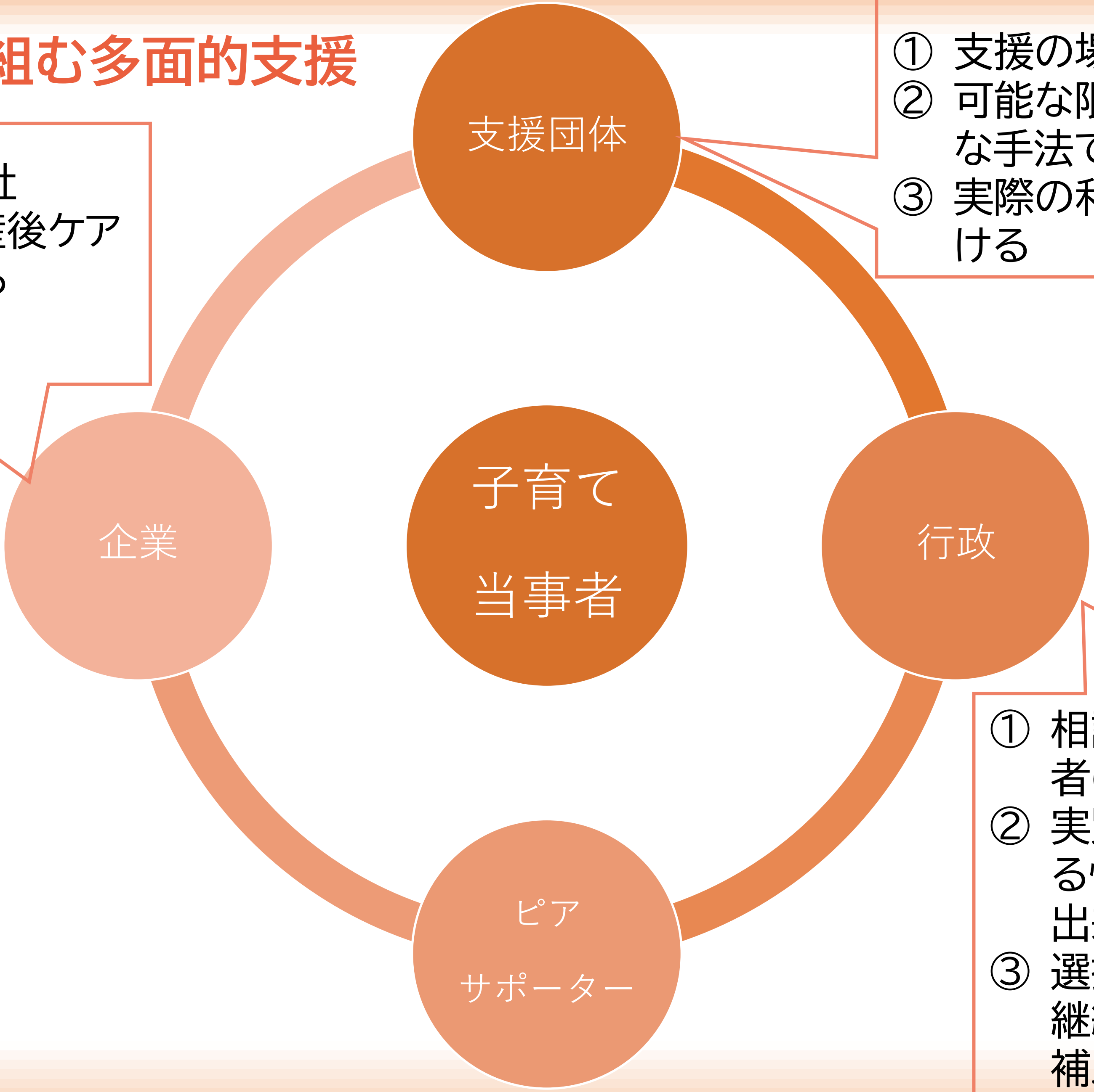
これからのコロナ禍子育て支援施策



これからのコロナ禍子育て支援施策

ネットワークで取り組む多面的支援

① 子連れ出勤できる会社
② 家事サポートや産前産後ケアが福利厚生としてある
③ 父親の産休育休確保



① 支援の場を止めない
② 可能な限りオンラインも含めた様々な手法で選択肢を持たせる
③ 実際の利用に繋がる情報発信を心掛ける

① 相談窓口・支援窓口などは対象者の日常導線上に設定を
② 実践例やモデルケースとなり得る情報を集約し、いつでも参考に出来るようアクセス可能に
③ 選択肢を提供できる支援団体の継続運営につながる支援（経費補助や環境整備等）

私たちにできること

私たちにできること

場づくり	子育て環境デザイン	つなぐ・つなげる連携
• 居場所 • オンラインコミュニティFcomo	• Co育てアシストプログラム	• 情報発信 • 情報共有

私たちにできること

場づくり

オンラインコミュニティFcomo

オンラインと対面
ママとママ
ママと地域をつなぐ
つなげる

〇地域限定！ママの口コミ情報
〇ママのお悩み相談
〇地域のおススメイベント情報

うちの子、
全然離乳食食べてくれないし
もうやだ。
みんなどうしてたのかな

子育て環境デザイン

子育て応援未来人材育成事業
『Co育てアシストプログラム』

みんな最初は
赤ちゃんだった
今を支えて
未来をつくる

〇高校生～社会人を巻き込んだ子育てサポート
〇体験・講話・動画・ワークで子育て理解
〇まち全体の子育て応援で受援力も自然とUP⤴

ご清聴ありがとうございました